

議会

No.223



議会に対するご意見
をお聞かせください。

☎電話の場合

☎0269-82-3111
(内線170番)

E-mailの場合

gikai@vill.kijimadaira.lg.jp

発行：木島平村議会
編集：議会だより編集委員会

令和元年度 議会国内視察研修

令和元年11月18日～20日、
3日間の日程で、岡山県西粟倉村、徳島県神山町を視察しました。

今年度は山崎栄喜議員・丸山邦久議員の報告書を抜粋・編集し、掲載します。

ローカルベンチャーの取り組み

【岡山県西粟倉村】

山崎 栄喜

岡山県西粟倉村は、中国山地の山あいであり林業が主な産業の村。ローカルベンチャー発祥の聖地。(ローカルベンチャーとは、その土地の宝物を自分なりの視点で見つけ、ビジネスを起こすこと。)

◎3人のキーパーソン

1人は、観光事業再生のために呼んだ人で、第一次産業が元気になるれば中山間地は活性化するという信念のもと、関係性とストーリーを大切にされた産業の創出をめ

ざした。

2人目は当時村長で、百年の森林構想(約50年生にまで育った森林の管理を、あきらめるのではなく、あと50年頑張つて育て、美しい森林に囲まれた「上品な田舎」の実現を唱える。

そしてもう1人は、民間会社の社長で、百年の森林事業により搬出された木材に付加価値を付け、商品化した。

◎百年の森林構想のポイント

50年先のビジョンを見据え、村が森林の所有者から管理の合意を取り付け森林の施業を行い、民間が林業の六次化を推進している。「共有の森ファンド」を立ち上げ、支援者を増やしている。

◎ローカルベンチャーの誕生

13年前に、西粟倉森林組合の合併に伴い若い職員が独立し、木材加工業を起業したのが最初。保育園などへの木製什器や木製大型遊具作りを行う。

その後、森林再生支援などを手掛ける東京の企業などが出資して設立された会社が、間伐材の木製



西粟倉村の担当職員の説明を聞く議員

品への加工などを展開。これに触発されて家具の製造、ゲストハウスの運営、ウナギ養殖などの事業が立ち上がり、現在は起業家養成講座も開かれて

◎西粟倉村のローカルベンチャー施策

- ・移住定住対策：地域に仕事が少ないので、仕事を持って移住するか仕事を作る人に来てもらう。
- ・小さな行政の実現：民間に任せられるものを拡大。民間は育たないという固定観念からの脱却。
- ・ローカルベンチャースクール：起業できる事業計画を募集、3ヶ月間提案事業の審査・精査を重ね、認定事業者のフォロワー体制を構築。移住要件により地域おこ

し協力隊制度を活用、3年後に事業の自立を目標にしている。

- ・ローカルライフラボ(平成29年度新設)：一旦、人を地域に引き込むため、地域の研究員として1年間「自分×地域」生業活動を行い、2年後以降はローカルベンチャースクールや地域に就職。

- ・新事業創出に係る研究開発事業：地域のベンチャーの事業拡大を支援するため、マーケティングや人材活用など最大3年間支援。

◎ローカルベンチャーの成果

- ・これまでに、34のローカルベンチャー事業が生まれ、雇用の場が増えた。また、「起業家の村」として知られるようになった。
- ・転入者が多くなり、世帯数が戦後最多を記録した。
- ・20～30代の移住者が多いため子どもの数が増え、近隣市町村より人口減少率が緩やかになった。

◎木島平村でも

固定観念にとらわれず、おいしい米や活用されない木材などを使用し、起業・六次産業化ができればと思った研修視察であった。

【徳島県神山町】

丸山 邦久

◎神山町ってこんな町

徳島県神山町は徳島県の中部に位置し、面積は徳島県24自治体の中で9番目に大きい173.3km²の中央を横断する鮎喰川流域に農地と集落が点在する。その周囲を300mから1500m級の山々が囲んでいる。全面積の83%が山地である。

徳島市から国道438号線が通じているが、四国山脈の入り口で秋山郷の小赤沢地区に似た雰囲気

の町。
昭和30年に合併して神山町が発足した時点で2万197人いた住民が2019年10月1日には5245人と実に74%が減少している。町の消滅が現実になるという危機感が半端ではない。

1999年より芸術家を招聘する神山アーティスト・イン・レジデンスを開始した。

この事業を担っているNPO法人グリーンバレーが移住支援事業や人材育成支援事業を町から受託している。

2004年にケーブルテレビ兼用の光ファイバー網を整備したことからより2010年にベンチャー企業Sansanが古民家をオフィスとしたのはじめ(写真1)、

IT企業のサテライトオフィスの進出が相次ぐ。



写真1 築90年の古民家を改修したえんがわオフィス

それに伴ってビストロや弁当屋など新規の第三次産業も生まれた。このことから2011年には神山町が発足した1955年以来初めて社会動態人口が増加に転じている。今回は神山町にサテライトオフィスを開設したIT企業の会長の隅田徹さんに話を聞いた。(写真2)

◎なぜIT企業から神山町が

選ばれるのか

- ・光ファイバー網が整備されている。アクセス数が東京に比べて圧倒的に少ないので通信速度が速く、ITベンチャーには働きやすい環境が整っている。
- ・多様性を認める寛容性がある。神山町の移住支援はNPO法人

グリーンバレーが窓口になっているため不公平ができ、その無責任さが心地よい。(役場が窓口になると誰にでも同じ話をしなければならぬが、この町では人のよつてちがうことをいう。)また共同作業はボランティア制度で義務ではない。

人間関係がフラットで自由。また人の距離感が絶妙で心地よい。様々な分野のプロフェッショナルが集まっていて、都会的な雰囲気もある。それでいて人の距離感が近いので交流の機会が多く、東京で暮らすよりずっと刺激的。

・クリエイティブな空気が流れている。この町の人はオープンでポジティブ。何かを始めようとするとき「やったらえんちゃん」といつてくれる。止める人がいない。何か新しいことが生まれそうなくわく感がある。
・四国八十八か所巡礼のお遍路道があるため「お接待」の文化があり移住者を孤立させない。さりげなくおせっかいはやいてくれる。

◎サテライトオフィスのメリット

オフィスコストが社員一人当たり東京で9万円に対して神山町は2万円ですべて的負担が軽い。アマゾンやアスクルに注文すれば東京と同じタイミングで納品される。

このため東京で仕事をしなければならぬ理由がどんどん無くなってきた。

2013年頃から社員はそれぞれに適した

- ①勤務場所(サテライトオフィス)
- ②一緒に働く人
- ③就業規則(仕事をやる時間等)を選べる社会に変わりつつある。



写真2 IT企業にとって魅力的な神山町を語る隅田氏

◎木島平村にも可能性あり?

交通インフラや平地・中山間地の多さでは本村の方が良い。また四季の変化の多様さ、自然の豊かさでもはるかに神山町に勝っている。移住者に対する「ねばならぬ」を払拭できるかどうか移住定住促進に必要なのだと感じた。

この報告書の全文及び他の議員の報告書は1月以降、議会事務局でいつでも閲覧できます。